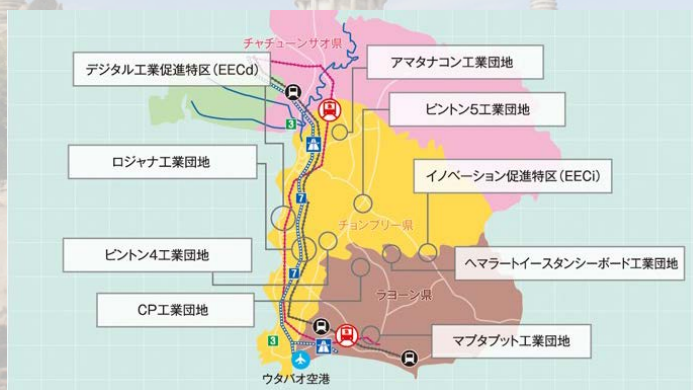


【第1号】

# タイ王国が世界の先進産業誘致を本格化！ ～EEC開発における日本産業への期待～



(EEC構想によるインフラ整備案 / 2017年4月17日 / 週刊ワイズ)

現在のタイにとって、経済政策上の最も大きな課題を大まかにまとめると「中進国の罨」を何とか抜け出し、その先の先進国の仲間入りに道筋をつける、ということになります。

「中進国の罨」とは、低賃金と優秀な労働力を背景に経済成長してきた国が、中進国になると国民が豊かさを求め、生活の質が向上する反面、賃金や物価が上がることを意味しますので、低コストというメリットが失われ、競争力を失うことにつながりかねません。このような場合、さらに技術を高度化することが必要ですが、先進国のような最先端の産業にキャッチアップすることは容易ではありません。低賃金の発展途上国には追いつけられ、先進国の壁はなかなか越えられない、板挟みの状況が「中進国の罨」という状況です。タイは80年代から先進国からの投資を積極的に受け入れ、製造業を中心に発展してきましたが、今や「中進国の罨」が見え隠れしている状況です。

「中進国の罨」を打破するためには、既存産業へのキャッチアップでは不十分です。先進国が行っていることを追いかけても、追いついた頃には最先端ではなくなってしまうからです。自動車産業を例にとれば、「ガソリン車が生産できるようになったので、次はハイブリッドだ」というやり方ではいつもまでも先進国の後塵を拝することになってしまいます。先進国はこれから本格化する電気自動車や自動運転車を目指そうという動きになっていますから、これから生まれる、本格化する産業を先取りする必要があります。

そのための基本計画としてタイ政府が打ち出した政策が「タイランド4.0」であり、タイ経済のデジタル化を加速し、高付加価値社会へ移行させるというものです。先進国へのキャッチアップではなく、今後20年間に先進国入りすることを目標としている野心的な政策となっています。

その中でも非常に大きな期待がかかっているのがEEC（タイ東部経済回廊：Eastern Economic Corridor）です。EECはバンコク東部のチョンブリー県、ラヨーン県、チャチュンサオ県を経済特区として投資優遇策など

(次ページへ続く)

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジエグテック」で検索してください

【第1号】

# タイ王国が世界の先進産業誘致を本格化！ ～EEC開発における日本産業への期待～



(EEC構想によるインフラ整備案 / 2017年4月17日 / 週刊ワイズ)

を実施するもので、これらの地域は30年ほど前から開発が続けられていますが、まだ開発の余地が多い地域でもありました。

今年の2月にこの地域の投資優遇策が具体化し、電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHV）といった次世代自動車をはじめ、医療、航空、ロボットなどハイテク産業の特定業種の投資促進と陸海空インフラなどを一体的に開発する構想が本格化しています。

EECは単なる投資優遇策ではなく、世界の中でも先進的な産業を誘致することで、先進国化を進めるという点が大きなポイントです。

またこの地域は中国の進める一帯一路構想につながる地域であり、カンボジアやベトナムといった国々との関係からも非常に重要なプロジェクトとなっています。

J-GoodTechは、日本の中小企業と、国内外の企業とをつなぐビジネスマッチングサイトです。

国内外での技術提携や販売提携など、幅広く事業展開を目指す企業の方は、ぜひご登録ください。



登録・掲載のお申し込みは  
WEBから「ジェグテック」で検索してください